

して、「ほとんど毎日食べる」「週に4~5日食べる」「週に2~3日食べる」「ほとんど食べない」の4選択肢で把握された。世帯の年間収入および暮らし向きとの関連については、「ほとんど毎日食べる」を1とし、それ以外を0として分析に用いた。「一人での食事」は、「あなたは、一日の全ての食事を一人で食べることがありますか」との教示に対して、「ほとんどない」「週1日程度」「週2~3日」「週4~5日」「ほとんど毎日」の5選択肢で把握された。世帯の年間収入および暮らし向きとの関連については、「ほとんどない」を1とし、それ以外を0として分析に用いた。

食のQOLについては、食事の楽しさを用いた。「あなたは、ふだんの食事時間が楽しいですか」との教示に対して、「楽しい」「どちらかといえば楽しい」「どちらともいえない」「どちらかといえば楽しくない」「楽しくない」の5選択肢で把握された。世帯の年間収入および暮らし向きとの関連については、「楽しい」「どちらかといえば楽しい」を1、それ以外を0として分析に用いた。

### 3) 属性

性別、年齢(20-39歳、40-59歳、60歳以上)、婚姻状況(配偶者あり、配偶者なし)、世帯員数(1人、2人、3人以上)、18歳未満の子どもの有無、都市規模(町村、人口10万人未満の市、人口10万人以上の市、政令指定都市、東京都区部)を用いた。

### 3. 統計解析

まず、世帯の年間収入及び主観的な暮らし向き区分において、食知識、食態度、食行動、食のQOLに有意差が認められるかどうか、 $\chi^2$ 検定を用いて検討した。

次に、世帯の年間収入及び主観的な暮らし向きが、食知識、食態度、食行動、食の

QOLとどのような関連があるか、多重ロジスティック回帰分析(強制投入法)を用いて検討を行い、オッズ比(OR)及び95%信頼区間(95%CI)を求めた。世帯の年間収入“600万円以上”及び主観的な暮らし向き“ゆとりあり”をリファレンス(OR 1.0)とした。はじめに、世帯の年間収入あるいは主観的な暮らし向きをそれぞれモデルに投入し、次に全ての変数をモデルに投入した。いずれも、性別、年齢、婚姻状況、世帯員数、18歳未満の子どもの有無、都市規模を共変量として投入した。

解析には、IBM SPSS Statistics 22を使用し、有意水準は5%とした。

### C. 結果

表1に対象者の基本属性を示した。

対象者の世帯の年間収入は、“200万円未満”が17.0%、“600万円以上”が29.8%であった。主観的な暮らし向きでは、“ゆとりなし”が30.4%、“ゆとりあり”が37.6%であった。

表2に世帯の年間収入別にみた、対象者の食知識、食態度、食行動、食のQOLを示した。食べ方への関心度、行動変容ステージ、朝食頻度、一人での食事に有意差が認められた。世帯の年間収入が、“200万円未満”で、食べ方への関心度や行動変容ステージが高い者が多く、朝食頻度はほぼ毎日の者が多かった。また、一人で食事を食べるものが「ほとんど毎日」と回答した者が、“200万円未満”で22%と、その他の群に比べて有意に多かった( $p<0.001$ )。

表3に主観的な暮らし向き別にみた、対象者の食知識、食態度、食行動、食のQOLを示した。食知識、食態度、食のQOLのい

ずれも有意差がみられ、食行動では「主食・主菜・副菜を1日2回以上」を「ほとんど毎日」と回答した者が“ゆとりなし”で約6割と、その他の群に比べて有意に多かった ( $p=0.001$ )。食のQOLは、“ゆとりあり”で「楽しい」と回答した者の割合が有意に多かった ( $p<0.001$ )。

表4に、世帯の年間収入または主観的な暮らし向き別にみた食品選択で重視することを示した。全ての変数を投入後(モデル2)、世帯の年間収入では、“200万円未満”の世帯で「価格」「特にない」が“600万円以上”に比べて有意にオッズ比が高く、「おいしさ」「産地」が有意に低かった。“200万円～600万円未満”では、“600万円以上”に比べて「価格」が有意に高く、「安全性」「産地」が有意に低かった。主観的な暮らし向きでは、“ゆとりあり”に比べて“ゆとりなし”で「価格」「量・大きさ」のオッズ比が有意に高く、「おいしさ」「鮮度」「産地」「栄養価」「季節感・旬」「天然素材・自然素材」「生産者・食品メーカー」のオッズ比は有意に低かった。“どちらでもない”では、「価格」のオッズ比が“ゆとりあり”に比べて有意に高かった。

表5に、世帯の年間収入または主観的な暮らし向き別にみた食品選択・調理について今後身につけたい知識を示した。全ての変数を投入後(モデル2)、世帯の年間収入では、“600万円以上”に比べて“200万円未満”で「食費を節約する料理の作り方」「特にない」のオッズ比が有意に高く、「旬の食材」「食品中の放射能について」「健康に配慮した料理の作り方」のオッズ比が有意に低かった。“200～600万円未満”では、「食品の保存の方法」「食費を節約す

る料理の作り方」「簡単にできる料理の作り方」「特にない」が“600万円以上”に比べて有意に高かった。主観的な暮らし向きでは、“ゆとりあり”で「何をどれだけ食べたらいいか」「特にない」が有意に高く、「旬の食材」「行事食や伝統食の作り方」「健康に配慮した料理の作り方」が“ゆとりあり”に比べて有意に低かった。

表6に、世帯の年間収入又は主観的な暮らし向き別にみた食知識、食態度、食行動、及び食のQOLを示した。世帯の年間収入では、有意な項目はなかった。主観的な暮らし向きでは、「一人での食事」を除く全項目(「食品選択・調理方法の知識」「食べ方への関心度」「(食事・運動等の)行動変容ステージ」「朝食頻度」「主食・主菜・副菜を1日2回以上」)で“ゆとりなし”のオッズ比が“ゆとりあり”に比べて有意に低かった。「食のQOL」では、“どちらでもない”のオッズ比も、“ゆとりあり”に比べて有意に低かった。

#### D. 考察

本研究において、世帯の年間収入が少ない者は、価格や食費を節約する料理への関心は高く、おいしさや産地、旬の食材や、健康に配慮した食事への関心が低いことが示された。また、収入とは独立して、主観的な暮らし向きが、食知識、食態度、食行動及び食のQOLと関連しており、社会経済的な要因が食生活に影響する可能性が示唆された。本研究は横断研究のため、因果関係を示すことはできないが、経済状況が知識や態度を介して間接的に食物摂取に影響していることが示唆されたことは、今後ますます社会格差が広がるなかで、教育プログラムや政策を通じて、個人や集団に働

きかけることが、健康格差の縮小に繋がる可能性が期待できる。

米国では、低所得層に向けた食料支援プログラムの中で栄養教育を実施し、限られた予算内で食生活指針や食事ガイドに沿った食生活が実践できるよう支援するプログラム (SNAP-Ed) が実施されている<sup>3)</sup>。米国では、食生活指針で推奨される野菜・果物の目安量を満たすには、1日1人2~2.50ドル(203~254円)、物価の高い地域では、1日1人10ドルにもなると言われている。平均的な地域でも、4人家族全員が望ましい量を摂取するには、1カ月300ドルとなる。4人家族の場合、支給額は最大でも月額632ドル(2013年11月~2014年9月の基準)であるため、野菜・果物を目安量摂取しようとするとおよそ支給額の半分を占めることになる。そのため、単に知識として情報を提供するだけでなく、行動変容に必要な意識や必要なスキルの向上を促す必要がある。米農務省によると、プログラムに参加した子どもや高齢者で、野菜・果物の摂取量が改善されたとの報告もある<sup>4)</sup>。確かなエビデンスとなるには、今後更なる研究が必要であるが、米国では、学校給食プログラム等、計15の食料支援プログラムが展開されており、米国内のフードセキュリティ問題への成果が注目される。

本研究では、世帯の年間収入と主観的な暮らし向きとの2つの指標を社会経済的要因として検討に用いたが、対象者の属性について、世帯の年間収入別にみたところ、200万円未満の62.5%は年齢が60歳以上であり、27.4%は世帯員数が1人であった。つまり、200万円未満と回答した者の5人に1人

(19.7%)は60歳以上の高齢者の単身世帯であった。また、“ゆとりなし”は56%が女性でほぼ男女均等なのに対して、世帯の

年間収入別にみると“200万円未満”は71%が女性であった。本研究では、それら属性の影響を調整した検討を行ったが、世帯の年間収入よりも主観的な暮らし向きと食生活、食意識との関連性が強く現れた背景には、このような属性の偏りの影響も否めない。また、回答者の約4割が60歳以上であり、子育て世代や勤労世代に限定した検討も今後の課題である。また、主観的な暮らし向きについては、経済的な暮らし向きとは限定して尋ねていない。世帯の年間収入と主観的な暮らし向きには有意な関連が認められたものの、今後更なる検討が必要である。

以上のような限界はあるものの、本研究では全国規模のデータを用いて、世帯の年間収入や主観的な暮らし向きが、食知識、食態度、食行動、食のQOLと関連があることを示した。

## E. 結論

世帯の経済状況や暮らし向きによって、食習慣やその背景にある個人の知識や態度にも違いがあることが示された。今後、経済格差の縮小を実現するための社会環境の整備における栄養・食生活支援の取組みにおいては、経済状況や主観的な暮らし向きへの配慮は不可欠である。

## F. 参考文献

1) 林芙美. 成人の「ゆとり感」と食生活との関連：内閣府食育調査を用いて、厚生労働科学研究費補助金(循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業)「日本人の食生活の内容を規定する社会経済的要因に関する実証的研究」平成24年度総括・分担研究報告書(研究代表者 村山伸子),

pp17 – 28 (2013).

2) 西信雄. 国民健康・栄養調査における世帯の年間収入別にみた生鮮食品の摂取量, 厚生労働科学研究費補助金(循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業)

「日本人の食生活の内容を規定する社会経済的要因に関する実証的研究」平成 24 年度総括・分担研究報告書(研究代表者 村山伸子), pp11 – 16 (2013).

3) USDA. Supplemental Nutrition Assistance Program (SNAP) Nutrition Education.

<http://www.fns.usda.gov/snap/nutrition-education/>

4) USDA. Study Shows Strong Nutrition Education Can Lead to Healthier Food Choices by Supplemental Nutrition Assistance Program (SNAP) Recipients.

<http://www.fns.usda.gov/pressrelease/2013/fns-001313>

## G. 健康危険情報

なし

## H. 研究発表

### 1. 発表論文

1) 會貫友美、赤松利恵、林芙美、武見ゆかり. 成人期の食に関する主観的 QOL (subjective diet-related quality of life (SDQOL)) と食知識、食習慣の関連 – 男女による比較検討. 栄養学雑誌, 71: 163-170 (2013).

2) Ainuki T, Akamatsu R, Hayashi F, Takemi Y. Association of enjoyable childhood mealtimes with adult eating behaviors and subjective diet-related quality of life. J Nutr Educ Behav 45: 274-278 (2013).

## 2. 学会発表

1) Hayashi F. Counseling for Eating Lifestyle Modification. Health education targeting for metabolic syndrome: Let's find useful hints through good practices in Korea and Japan for the future program. Japan-Korea Joint Symposium, Japanese Society of Health Education and Promotion. June 21, 2013 (Speaker at Main Symposium)

## I. 知的財産権の出願・登録状況(予定を含む)

### 1. 特許取得

なし

### 2. 実用案登録

なし

### 3. その他

なし

表1 対象者の基本属性および社会経済的状況 (n = 1,522)

変数		n	%
基本属性			
性別	男性	706	46.4
	女性	816	53.6
年齢層	20-39歳	321	21.1
	40-59歳	591	38.8
	60歳以上	610	40.2
婚姻状況	配偶者あり	1,165	76.5
	配偶者なし	357	23.5
世帯員数	1人	136	8.9
	2人	459	30.2
	3人以上	927	60.9
18歳未満の子どもの有無	無し	1,008	66.2
	有り	514	33.8
都市規模	町村	94	6.2
	人口10万人未満の市	298	19.6
	人口10万人以上の市	635	41.7
	政令指定都市	328	21.6
	東京都区部	167	11.0
社会経済的状況			
世帯の年間収入	200万円未満	259	17.0
	200万～600万円未満	809	53.2
	600万円以上	454	29.8
主観的な暮らし向き	ゆとりなし	462	30.4
	どちらでもない	487	32.0
	ゆとりあり	573	37.6

表2 世帯の年間収入別にみた対象者の食知識、食態度、食行動、及び食のQOL (n = 1,522)

		世帯の年間収入						$\chi^2$
		200万円未満 (n = 259)		200～600万円未満 (n = 809)		600万円以上 (n = 454)		
		人数	%	人数	%	人数	%	
食知識	食品選択・調理方法の知識							
	十分にあると思う	42	16.2	116	14.3	68	15.0	0.10
	ある程度あると思う	154	59.5	417	51.5	243	53.5	
	あまりないと思う	52	20.1	233	28.8	127	28.0	
	全くないと思う	11	4.2	43	5.3	16	3.5	
食態度	食べ方への関心度							
	関心がある	129	49.8	326	40.3	160	35.2	<b>&lt;0.001</b>
	どちらかといえば関心がある	70	27.0	224	27.7	170	37.4	
	どちらかといえば関心がない	34	13.1	139	17.2	77	17.0	
	関心がない	26	10.0	120	14.8	47	10.4	
	(食事・運動等の) 行動変容ステージ							
	維持期	127	49.0	352	43.5	202	44.5	<b>0.004</b>
	実行期	8	3.1	32	4.0	18	4.0	
	準備期	61	23.6	176	21.8	134	29.5	
	熟考期	23	8.9	86	10.6	47	10.4	
	前熟考期	40	15.4	163	20.1	53	11.7	
食行動	朝食頻度							
	ほとんど毎日食べる	230	88.8	688	85.0	396	87.2	<b>0.008</b>
	週に4～5日食べる	10	3.9	34	4.2	8	1.8	
	週に2～3日食べる	11	4.2	18	2.2	17	3.7	
	ほとんど食べない	8	3.1	69	8.5	33	7.3	
	主食・主菜・副菜を1日2回以上							
	ほとんど毎日	181	69.9	536	66.3	311	68.5	0.64
	週に4～5日	32	12.4	129	15.9	75	16.5	
	週に2～3日	33	12.7	98	12.1	46	10.1	
	ほとんどない	13	5.0	46	5.7	22	4.8	
	一人での食事							
	ほとんどない	150	57.9	645	79.7	362	79.7	<b>&lt;0.001</b>
	週1日程度	28	10.8	56	6.9	37	8.1	
	週2～3日	15	5.8	38	4.7	20	4.4	
週4～5日	9	3.5	26	3.2	18	4.0		
ほとんど毎日	57	22.0	44	5.4	17	3.7		
食のQOL	食事の楽しさ							
	楽しい	146	56.4	454	56	251	55.3	0.29
	どちらかといえば楽しい	64	24.7	223	28	133	29.3	
	どちらともいえない	40	15.4	111	14	66	14.5	
	どちらかといえば楽しくない	5	1.9	16	2	3	0.7	
	楽しくない	4	1.5	5	1	1	0.2	

表3 主観的な暮らし向き別にみた対象者の食知識、食態度、食行動、及び食のQOL (n = 1,522)

		主観的な暮らし向き						$\chi^2$
		ゆとりなし (n = 462)		どちらでもない (n = 487)		ゆとりあり (n = 573)		
		人数	%	人数	%	人数	%	
食知識	食品選択・調理方法の知識							
	十分にあると思う	74	16.0	42	8.6	110	19.2	<b>&lt;0.001</b>
	ある程度あると思う	222	48.1	287	58.9	305	53.2	
	あまりないと思う	142	30.7	133	27.3	137	23.9	
全くないと思う	24	5.2	25	5.1	21	3.7		
食態度	食べ方への関心度							
	関心がある	170	36.8	183	37.6	262	45.7	<b>&lt;0.001</b>
	どちらかといえば関心がある	122	26.4	168	34.5	174	30.4	
	どちらかといえば関心がない	93	20.1	73	15.0	84	14.7	
	関心がない	77	16.7	63	12.9	53	9.2	
	(食事・運動等の) 行動変容ステージ							
	維持期	178	38.5	216	44.4	287	50.1	<b>0.011</b>
	実行期	18	3.9	16	3.3	24	4.2	
	準備期	118	25.5	132	27.1	121	21.1	
	熟考期	61	13.2	44	9.0	51	8.9	
前熟考期	87	18.8	79	16.2	90	15.7		
食行動	朝食頻度							
	ほとんど毎日食べる	385	83.3	423	86.9	506	88.3	0.33
	週に4~5日食べる	20	4.3	14	2.9	18	3.1	
	週に2~3日食べる	15	3.2	14	2.9	17	3.0	
	ほとんど食べない	42	9.1	36	7.4	32	5.6	
	主食・主菜・副菜を1日2回以上							
	ほとんど毎日	280	60.6	338	69.4	410	71.6	<b>0.001</b>
	週に4~5日	75	16.2	76	15.6	85	14.8	
	週に2~3日	70	15.2	52	10.7	55	9.6	
	ほとんどない	37	8.0	21	4.3	23	4.0	
	一人での食事							
	ほとんどない	337	72.9	385	79.1	435	75.9	0.25
	週1日程度	37	8.0	33	6.8	51	8.9	
	週2~3日	29	6.3	23	4.7	21	3.7	
週4~5日	19	4.1	17	3.5	17	3.0		
ほとんど毎日	40	8.7	29	6.0	49	8.6		
食のQOL	食事の楽しさ							
	楽しい	232	50.2	264	54.2	355	62.0	<b>&lt;0.001</b>
	どちらかといえば楽しい	128	27.7	128	26.3	164	28.6	
	どちらともいえない	83	18.0	89	16.3	45	7.9	
	どちらかといえば楽しくない	15	3.2	3	0.6	6	1.0	
	楽しくない	4	0.9	3	0.6	3	0.5	

表4 世帯の年間収入又は主観的な暮らしむき別にみた食品選択で重視すること (n=1,522)

	人数	%	$\chi^2$	モデル1		モデル2	
				OR	95%CI	OR	95%CI
<b>価格</b>							
200万円未満	177	68.3	<b>0.019</b>	<b>1.90</b>	1.31-2.77	<b>1.59</b>	1.08-2.35
200～600万円未満	570	70.5		<b>1.88</b>	1.43-2.46	<b>1.70</b>	1.29-2.25
600万円以上	285	62.8		1.00		1.00	
ゆとりなし	344	74.5	<b>&lt;0.001</b>	<b>1.90</b>	1.44-2.51	<b>1.70</b>	1.28-2.27
どちらでもない	343	70.4		<b>1.48</b>	1.13-1.93	<b>1.40</b>	1.07-1.84
ゆとりあり	345	60.2		1.00		1.00	
<b>おいしさ</b>							
200万円未満	93	35.9	<b>0.001</b>	<b>0.63</b>	0.44-0.89	<b>0.70</b>	0.49-1.00
200～600万円未満	381	47.1		0.95	0.75-1.21	1.01	0.79-1.29
600万円以上	224	49.3		1.00		1.00	
ゆとりなし	190	41.1	<b>0.013</b>	<b>0.70</b>	0.54-0.90	<b>0.74</b>	0.57-0.96
どちらでもない	220	45.2		0.80	0.63-1.03	0.81	0.63-1.04
ゆとりあり	288	50.3		1.00		1.00	
<b>好み</b>							
200万円未満	109	42.1	0.17	0.89	0.63-1.26	0.90	0.63-1.29
200～600万円未満	392	48.5		1.16	0.91-1.49	1.18	0.92-1.52
600万円以上	205	45.2		1.00		1.00	
ゆとりなし	213	46.1	0.43	0.93	0.72-1.19	0.93	0.72-1.20
どちらでもない	216	44.4		0.86	0.67-1.10	0.85	0.66-1.09
ゆとりあり	277	48.3		1.00		1.00	
<b>鮮度</b>							
200万円未満	205	79.2	0.093	0.69	0.45-1.06	0.87	0.56-1.36
200～600万円未満	619	76.5		0.74	0.54-1.01	0.83	0.61-1.14
600万円以上	371	81.7		1.00		1.00	
ゆとりなし	331	71.6	<b>&lt;0.001</b>	<b>0.52</b>	0.38-0.71	<b>0.54</b>	0.39-0.74
どちらでもない	396	81.3		0.95	0.69-1.31	0.97	0.70-1.33
ゆとりあり	468	81.7		1.00		1.00	
<b>安全性</b>							
200万円未満	168	64.9	<b>0.003</b>	<b>0.64</b>	0.44-0.92	0.71	0.49-1.04
200～600万円未満	497	61.4		<b>0.65</b>	0.50-0.84	<b>0.68</b>	0.52-0.89
600万円以上	322	70.9		1.00		1.00	
ゆとりなし	277	60.0	<b>0.023</b>	<b>0.70</b>	0.54-0.91	0.76	0.58-1.00
どちらでもない	332	68.2		1.05	0.81-1.37	1.09	0.83-1.43
ゆとりあり	378	66.0		1.00		1.00	
<b>産地</b>							
200万円未満	98	37.8	<b>0.036</b>	<b>0.60</b>	0.42-0.85	<b>0.68</b>	0.47-0.98
200～600万円未満	319	39.4		<b>0.74</b>	0.56-0.93	<b>0.77</b>	0.50-1.00
600万円以上	209	46.0		1.00		1.00	
ゆとりなし	162	35.1	<b>0.004</b>	<b>0.64</b>	0.49-0.82	<b>0.69</b>	0.53-0.90
どちらでもない	206	42.3		0.89	0.69-1.14	0.91	0.71-1.18
ゆとりあり	258	45.0		1.00		1.00	
<b>量・大きさ</b>							
200万円未満	59	22.8	0.15	1.28	0.84-1.93	1.13	0.73-1.74
200～600万円未満	201	24.8		<b>1.42</b>	1.06-1.90	1.33	0.98-1.79
600万円以上	91	20.0		1.00		1.00	
ゆとりなし	124	26.8	<b>0.025</b>	<b>1.48</b>	1.10-2.00	<b>1.42</b>	1.04-1.94
どちらでもない	114	23.4		1.22	0.90-1.64	1.19	0.88-1.61
ゆとりあり	113	19.7		1.00		1.00	
<b>栄養価</b>							
200万円未満	75	29.0	0.23	<b>0.62</b>	0.42-0.91	0.69	0.47-1.03
200～600万円未満	272	33.6		1.08	0.83-1.41	1.15	0.88-1.51
600万円以上	136	30.0		1.00		1.00	
ゆとりなし	128	27.7	0.054	<b>0.70</b>	0.53-0.91	<b>0.73</b>	0.55-0.97
どちらでもない	156	32.0		0.91	0.70-1.19	0.91	0.70-1.19
ゆとりあり	199	34.7		1.00		1.00	



表4 続き

	人数	%	$\chi^2$	モデル1		モデル2	
				OR	95%CI	OR	95%CI
季節感・旬							
200万円未満	120	46.3	0.056	<b>0.63</b>	0.45-0.89	0.71	0.50-1.02
200～600万円未満	380	47.0		<b>0.76</b>	0.59-0.97	0.81	0.63-1.04
600万円以上	243	53.5		1.00		1.00	
ゆとりなし	201	43.5	0.018	<b>0.67</b>	0.52-0.86	<b>0.71</b>	0.55-0.93
どちらでもない	243	49.9		0.88	0.69-1.14	0.91	0.71-1.17
ゆとりあり	299	52.2		1.00		1.00	
天然素材・自然素材							
200万円未満	95	36.7	0.28	0.70	0.48-1.00	0.80	0.55-1.16
200～600万円未満	259	32.0		<b>0.74</b>	0.57-0.97	0.80	0.61-1.04
600万円以上	160	35.2		1.00		1.00	
ゆとりなし	135	29.2	<b>0.011</b>	<b>0.64</b>	0.49-0.84	<b>0.68</b>	0.51-0.90
どちらでもない	161	33.1		0.82	0.63-1.07	0.84	0.64-1.09
ゆとりあり	218	38.0		1.00		1.00	
生産者・食品メーカー							
200万円未満	67	25.9	0.79	0.69	0.47-1.02	0.78	0.52-1.17
200～600万円未満	227	28.1		0.97	0.74-1.28	1.04	0.78-1.38
600万円以上	124	27.3		1.00		1.00	
ゆとりなし	111	24.0	<b>0.028</b>	<b>0.68</b>	0.51-0.90	<b>0.70</b>	0.52-0.94
どちらでもない	128	26.3		0.80	0.61-1.05	0.80	0.61-1.06
ゆとりあり	179	31.2		1.00		1.00	
簡便性							
200万円未満	46	17.8	0.70	1.20	0.76-1.90	1.14	0.71-1.83
200～600万円未満	147	18.2		1.27	0.92-1.75	1.22	0.88-1.70
600万円以上	74	16.3		1.00		1.00	
ゆとりなし	87	18.8	0.13	1.27	0.91-1.77	1.22	0.86-1.73
どちらでもない	94	19.3		1.31	0.94-1.82	1.28	0.92-1.79
ゆとりあり	86	15.0		1.00		1.00	
見栄え							
200万円未満	14	5.4	0.88	1.04	0.49-2.21	1.16	0.53-2.52
200～600万円未満	48	5.9		1.13	0.66-1.92	1.19	0.69-2.04
600万円以上	24	5.3		1.00		1.00	
ゆとりなし	22	4.8	0.60	0.77	0.44-1.35	0.75	0.42-1.33
どちらでもない	30	6.2		1.02	0.61-1.71	1.01	0.60-1.69
ゆとりあり	34	5.9		1.00		1.00	
特になし							
200万円未満	8	3.1	<b>0.008</b>	<b>13.93</b>	1.64-118.4	<b>12.30</b>	1.41-108.1
200～600万円未満	15	1.9		6.46	0.82-50.7	5.82	0.74-46.0
600万円以上	1	0.2		1.00		1.00	
ゆとりなし	10	2.2	0.10	<b>3.39</b>	1.04-11.03	2.60	0.79-8.60
どちらでもない	10	2.1		<b>3.40</b>	1.05-11.05	3.24	0.99-10.62
ゆとりあり	4	0.7		1.00		1.00	

モデル1は、性、年齢、世帯員数、都市規模、婚姻状況、18歳未満の子どもの有無で調整。  
 モデル2は、モデル1に加えて年間世帯収入で調整。

表5 世帯の年間収入又は主観的な暮らしむき別にみた食品選択・調理について今後身につけたい知識  
(n = 1,522)

	人数	%	$\chi^2$	モデル1		モデル2	
				OR	95%CI	OR	95%CI
旬の食材							
200万円未満	67	25.9	0.33	0.72	0.50-1.05	<b>0.81</b>	0.55-1.20
200～600万円未満	219	27.1		0.81	0.62-1.06	0.86	0.66-1.13
600万円以上	138	30.4		1.00		1.00	
ゆとりなし	107	23.2	<b>0.025</b>	<b>0.69</b>	0.52-0.92	<b>0.73</b>	0.54-0.97
どちらでもない	143	29.4		0.96	0.73-1.25	0.98	0.75-1.28
ゆとりあり	174	30.4		1.00		1.00	
食品表示の見方							
200万円未満	52	20.1	0.096	1.06	0.69-1.61	1.06	0.68-1.64
200～600万円未満	196	24.2		1.33	0.99-1.78	1.31	0.97-1.77
600万円以上	88	19.4		1.00		1.00	
ゆとりなし	97	21.0	<b>0.021</b>	1.10	0.81-1.50	1.07	0.78-1.47
どちらでもない	128	26.3		<b>1.49</b>	1.11-1.99	<b>1.46</b>	1.08-1.95
ゆとりあり	111	19.4		1.00		1.00	
食品の保存の方法							
200万円未満	95	36.7	<b>0.045</b>	1.23	0.85-1.76	1.26	0.87-1.84
200～600万円未満	305	37.7		<b>1.41</b>	1.09-1.83	<b>1.42</b>	1.09-1.85
600万円以上	140	30.8		1.00		1.00	
ゆとりなし	162	35.1	0.40	1.01	0.77-1.31	0.94	0.72-1.24
どちらでもない	184	37.8		1.17	0.91-1.52	1.14	0.88-1.48
ゆとりあり	194	33.9		1.00		1.00	
食中毒の予防							
200万円未満	88	34.0	0.29	1.05	0.74-1.50	1.12	0.77-1.61
200～600万円未満	307	37.9		1.20	0.93-1.55	1.24	0.96-1.61
600万円以上	155	34.1		1.00		1.00	
ゆとりなし	157	34.0	0.50	0.87	0.67-1.13	0.84	0.64-1.10
どちらでもない	179	36.8		0.97	0.75-1.25	0.95	0.74-1.23
ゆとりあり	214	37.3		1.00		1.00	
食品中の放射能について							
200万円未満	73	28.2	<b>0.031</b>	<b>0.60</b>	0.42-0.87	<b>0.63</b>	0.43-0.93
200～600万円未満	257	31.8		0.78	0.60-1.01	0.79	0.61-1.03
600万円以上	169	37.2		1.00		1.00	
ゆとりなし	133	28.8	<b>0.027</b>	0.83	0.63-1.09	0.91	0.68-1.20
どちらでもない	180	37.0		1.22	0.94-1.58	1.26	0.97-1.64
ゆとりあり	186	32.5		1.00		1.00	
何をどれだけ食べたらいいか							
200万円未満	55	21.2	0.93	1.05	0.70-1.60	0.90	0.58-1.39
200～600万円未満	163	20.1		1.00	0.74-1.36	0.92	0.68-1.25
600万円以上	92	20.3		1.00		1.00	
ゆとりなし	112	24.2	<b>0.030</b>	<b>1.52</b>	1.12-2.07	<b>1.56</b>	1.24-2.14
どちらでもない	97	19.9		1.17	0.86-1.60	1.18	0.86-1.62
ゆとりあり	101	17.6		1.00		1.00	
一食あたりの献立の立て方							
200万円未満	51	19.7	0.13	1.28	0.81-2.01	1.38	0.87-2.21
200～600万円未満	140	17.3		1.22	0.87-1.71	1.28	0.91-1.81
600万円以上	64	14.1		1.00		1.00	
ゆとりなし	77	16.7	0.15	0.83	0.60-1.15	0.77	0.55-1.08
どちらでもない	70	14.4		<b>0.71</b>	0.51-1.00	<b>0.69</b>	0.49-0.97
ゆとりあり	108	18.8		1.00		1.00	
家庭料理の作り方							
200万円未満	63	24.3	0.89	1.04	0.70-1.55	1.09	0.72-1.65
200～600万円未満	186	23.0		0.95	0.71-1.26	0.99	0.74-1.32
600万円以上	108	23.8		1.00		1.00	
ゆとりなし	108	23.4	0.081	0.84	0.63-1.12	0.83	0.61-1.12
どちらでもない	99	20.3		<b>0.69</b>	0.51-0.92	<b>0.69</b>	0.51-0.92
ゆとりあり	150	26.2		1.00		1.00	

表5 続き

	人数	%	モデル1			モデル2	
			$\chi^2$	OR	95%CI	OR	95%CI
行事食や伝統食の作り方							
200万円未満	28	10.8	0.47	0.93	0.55-1.58	1.10	0.64-1.90
200～600万円未満	99	12.2		0.96	0.67-1.38	1.03	0.72-1.49
600万円以上	63	13.9		1.00		1.00	
ゆとりなし	43	9.3	<b>0.013</b>	<b>0.66</b>	0.44-0.99	<b>0.65</b>	0.42-0.99
どちらでもない	76	15.6		1.19	0.83-1.70	1.18	0.82-1.69
ゆとりあり	71	12.4		1.00		1.00	
食品の廃棄を減らす方法							
200万円未満	69	26.6	0.58	1.26	0.85-1.85	1.23	0.83-1.84
200～600万円未満	212	26.2		1.20	0.91-1.59	1.19	0.89-1.58
600万円以上	108	23.8		1.00		1.00	
ゆとりなし	122	26.4	0.37	1.13	0.85-1.50	1.07	0.80-1.15
どちらでもない	132	27.1		1.17	0.88-1.55	1.15	0.86-1.52
ゆとりあり	135	23.6		1.00		1.00	
食費を節約する料理の作り方							
200万円未満	89	34.4	<b>0.003</b>	<b>2.27</b>	1.54-3.34	<b>2.08</b>	1.39-3.11
200～600万円未満	251	31.0		<b>1.79</b>	1.35-2.38	<b>1.71</b>	1.28-2.29
600万円以上	107	23.6		1.00		1.00	
ゆとりなし	159	34.4	<b>0.006</b>	<b>1.48</b>	1.12-1.97	1.27	0.94-1.70
どちらでもない	143	29.4		1.14	0.86-1.52	1.07	0.80-1.43
ゆとりあり	145	25.3		1.00		1.00	
健康に配慮した料理の作り方							
200万円未満	114	44.0	<b>0.030</b>	<b>0.61</b>	0.43-0.86	<b>0.68</b>	0.47-0.97
200～600万円未満	380	47.0		<b>0.78</b>	0.61-0.99	0.82	0.64-1.05
600万円以上	242	53.3		1.00		1.00	
ゆとりなし	196	42.4	<b>0.008</b>	<b>0.69</b>	0.53-0.89	<b>0.74</b>	0.57-0.97
どちらでもない	253	52.0		1.03	0.80-1.32	1.06	0.83-1.36
ゆとりあり	287	50.1		1.00		1.00	
簡単にできる料理の作り方							
200万円未満	88	34.0	0.13	1.29	0.89-1.86	1.28	0.88-1.88
200～600万円未満	269	33.3		<b>1.32</b>	1.02-1.73	<b>1.33</b>	1.01-1.74
600万円以上	128	28.2		1.00		1.00	
ゆとりなし	158	34.2	0.34	1.05	0.81-1.37	0.99	0.75-1.30
どちらでもない	145	29.8		0.87	0.66-1.13	0.84	0.64-1.10
ゆとりあり	182	31.8		1.00		1.00	
災害時の非常食について							
200万円未満	66	25.5	0.19	0.89	0.61-1.31	0.86	0.58-1.28
200～600万円未満	238	29.4		1.02	0.78-1.32	1.00	0.76-1.31
600万円以上	145	31.9		1.00		1.00	
ゆとりなし	142	30.7	0.68	1.08	0.82-1.42	1.10	0.83-1.47
どちらでもない	145	29.8		1.00	0.76-1.32	1.01	0.77-1.33
ゆとりあり	162	28.3		1.00		1.00	
特になし							
200万円未満	45	17.4	<b>&lt;0.001</b>	<b>3.21</b>	1.77-5.82	<b>2.82</b>	1.52-5.22
200～600万円未満	99	12.2		<b>2.17</b>	1.32-3.57	<b>2.01</b>	1.21-3.33
600万円以上	23	5.1		1.00		1.00	
ゆとりなし	64	13.9	<b>0.014</b>	<b>1.94</b>	1.28-2.94	<b>1.64</b>	1.07-2.52
どちらでもない	56	11.5		<b>1.72</b>	1.12-2.64	<b>1.64</b>	1.07-2.52
ゆとりあり	47	8.2		1.00		1.00	

モデル1は、性、年齢、世帯員数、都市規模、婚姻状況、18歳未満の子どもの有無で調整。

モデル2は、モデル1に加えて年間世帯収入で調整。

表6 世帯の年間収入又は主観的な暮らし向き別にみた食知識、食態度、食行動、及び食のQOL (n=1,522)

		人数	%	$\chi^2$	モデル1		モデル2	
					OR	95%CI	OR	95%CI
食知識	食品選択・調理方法の知識							
	200万円未満	196	75.7	<b>0.013</b>	0.76	0.51-1.13	0.89	0.59-1.34
	200～600万円未満	533	65.9		0.76	0.58-1.00	0.83	0.63-1.10
	600万円以上	311	68.5		1.00		1.00	
	ゆとりなし	296	64.1	<b>0.015</b>	<b>0.60</b>	0.45-0.80	<b>0.62</b>	0.46-0.84
	どちらでもない	329	67.6		0.81	0.61-1.08	0.83	0.62-1.10
	ゆとりあり	415	72.4		1.00		1.00	
食態度	食べ方への関心度							
	200万円未満	199	76.8	<b>0.015</b>	0.82	0.55-1.22	1.05	0.69-1.59
	200～600万円未満	550	68.0		<b>0.71</b>	0.54-0.94	0.81	0.61-1.07
	600万円以上	330	72.7		1.00		1.00	
	ゆとりなし	292	63.2	<b>&lt;0.001</b>	<b>0.50</b>	0.37-0.66	<b>0.50</b>	0.38-0.68
	どちらでもない	351	72.1		0.83	0.62-1.10	0.84	0.63-1.12
	ゆとりあり	436	76.1		1.00		1.00	
	(食事・運動等の) 行動変容ステージ							
	200万円未満	135	52.1	0.43	<b>0.68</b>	0.48-0.96	0.79	0.55-1.13
	200～600万円未満	384	47.5		<b>0.77</b>	0.60-0.99	0.83	0.64-1.08
	600万円以上	220	48.5		1.00		1.00	
	ゆとりなし	196	42.4	<b>0.001</b>	<b>0.61</b>	0.47-0.79	<b>0.64</b>	0.49-0.84
	どちらでもない	232	47.6		0.83	0.65-1.07	0.85	0.66-1.10
	ゆとりあり	311	54.3		1.00		1.00	
食行動	朝食頻度							
	200万円未満	230	88.8	0.25	0.84	0.49-1.44	1.01	0.58-1.78
	200～600万円未満	688	85.0		0.74	0.52-1.07	0.82	0.57-1.19
	600万円以上	396	87.2		1.00		1.00	
	ゆとりなし	385	83.3	0.063	<b>0.61</b>	0.42-0.88	<b>0.62</b>	0.42-0.91
	どちらでもない	423	86.9		0.90	0.62-1.33	0.92	0.63-1.36
	ゆとりあり	506	88.3		1.00		1.00	
	主食・主菜・副菜を1日2回以上							
	200万円未満	181	69.9	0.48	0.85	0.58-1.26	1.05	0.70-1.57
	200～600万円未満	536	66.3		0.79	0.60-1.04	0.88	0.67-1.16
	600万円以上	311	68.5		1.00		1.00	
	ゆとりなし	280	60.6	<b>0.001</b>	<b>0.57</b>	0.43-0.76	<b>0.58</b>	0.43-0.77
	どちらでもない	338	69.4		0.92	0.69-1.21	0.92	0.70-1.22
	ゆとりあり	410	71.6		1.00		1.00	
	一人での食事							
	200万円未満	150	57.9	<b>&lt;0.001</b>	<b>0.61</b>	0.40-0.95	0.65	0.41-1.02
	200～600万円未満	645	79.7		1.12	0.81-1.55	1.14	0.82-1.60
	600万円以上	362	79.7		1.00		1.00	
	ゆとりなし	337	72.9	0.088	0.84	0.60-1.17	0.88	0.62-1.25
	どちらでもない	385	79.1		1.06	0.76-1.48	1.06	0.75-1.48
ゆとりあり	435	75.9		1.00		1.00		
食のQOL	食事が楽しい							
	200万円未満	210	81.0	0.47	1.02	0.64-1.62	1.46	0.89-2.40
	200～600万円未満	677	83.7		0.99	0.71-1.39	1.21	0.86-1.72
	600万円以上	384	84.6		1.00		1.00	
	ゆとりなし	360	77.9	<b>&lt;0.001</b>	<b>0.35</b>	0.25-0.51	<b>0.33</b>	0.22-0.48
	どちらでもない	392	80.5		<b>0.40</b>	0.27-0.57	<b>0.38</b>	0.27-0.56
	ゆとりあり	519	90.6		1.00		1.00	

モデル1は、性、年齢、世帯員数、都市規模、婚姻状況、18歳未満の子どもの有無で調整。

モデル2は、モデル1に加えて年間世帯収入/暮らし向きで調整。

## II. 分担研究報告書

### 3. 世帯の社会経済状態と子どもの食生活・栄養状態との関連：実態調査の方法

研究代表者 村山伸子 新潟県立大学 教授  
研究分担者 山本妙子 神奈川県立保健福祉大学 教授  
研究分担者 石田裕美 女子栄養大学 教授  
研究分担者 阿部 彩 国立社会保障・人口問題研究所 部長  
研究協力者 碓野佐也加 松本大学・助手  
研究協力者 野末みほ 国立健康・栄養研究所 研究員  
研究協力者 中西明美 女子栄養大学 専任講師

#### 研究要旨

本研究は、児童の食生活と世帯の社会経済的要因や保護者の意識等との関連を明らかにし、子どものフードセキュリティの状況を把握できるような指標を検討することを目的とした。全国 4 県の 6 市町村にある 19 小学校に在籍する 5 年生全数 1498 人のうち、長期欠席等の児童を除く 1447 人の児童と保護者に調査協力を依頼した。調査項目と方法は、保護者に対する自記式質問紙調査、児童に対する自記式質問紙調査、児童の食事記録は記録法と写真法を用い、児童の体格を健診結果から把握した。調査と解析にあたっては、標準化をおこなうため、児童向け食事調査マニュアルを作成した。その結果、1196 人（82.6%）から同意を得、解析対象とした。

今後、社会経済的要因と食生活との関連について、検証していく。

#### A. 目的

健康日本 21（第 2 次）の最終目標に、健康格差の縮小が位置付けられ、その実態把握が急務となっている。一方、日本の子どもの貧困率は 14.9%（平成 25 年）と高く、先進国 31 か国中 22 位であった<sup>1)</sup>。そこで、平成 26 年 1 月には「子どもの貧困対策の推進に関する法律」が施行され、内閣府、文部科学省、厚生労働省が協力して具体的な

施策がおこなわれることになった。その中に生活の支援も含まれている。

しかし、20 歳未満の子どもについては、既存の調査で、社会経済的状况と食生活との関連について実態把握をすることは難しい。その理由として、国民健康・栄養調査等では、世帯収入のデータがあっても、子どもの年齢別にすると対象者数が少ないこと、食事調査が案分比率であるため子ども

の食事内容を把握することが困難であること、平日1日調査であることから習慣的な摂取量の推定に限界があることがあげられる。また、各地域で実施されている調査は、質問紙調査がほとんどであり、食事や食物摂取状況が把握されていないこと。食事調査をしていても、世帯の所得や保護者の教育年数、就業状況等の社会経済的要因についての把握がおこなわれていないことがあげられる。

そこで、本研究では、データが少ない子どもの食生活について実態を把握するとともに、世帯の社会経済的要因や保護者の意識等との関連を明らかにすることを目的とした。また、今後、簡単な質問で子どものフードセキュリティの状況を把握できるような指標を検討する。

本研究の特徴は、両者の関連の有無や程度だけでなく、その関連を構造的に理解することにより、子どもの食生活改善の政策に役立てることができる点にある。

## B. 方法

### 1) 対象地域と対象者 (表1)

調査は小学校5年生とその保護者とした。小学5年生を対象とした理由は、食事の記録が可能で食生活の自記式調査に回答できる年齢で、かつ卒業をひかえた6年生に比べて時間的な余裕があるためである。また、中学、高校になるにともない、調査協力率が低下することが予測されたため、できるだけ低学年でかつ自記式の調査が可能な年齢として小学5年生を対象とした。

全国4県の6市町村の教育委員会から協力を得、その内19小学校に在籍する5年生

全数1498人のうち、長期欠席等の児童を除く1447人の児童と保護者に調査協力を依頼した。

A県の対象地域は平地の市街地近郊の住宅地である。B県とD県の対象地域は都市近郊の住宅地である。C県の対象地域は山間部の住宅地である。

### 2) 本研究の仮説 (図1)

平成24年度の報告書に掲載した本研究の仮説を図1に再掲する。アウトカム指標は、体格と食事内容(栄養素等摂取量、食品群別摂取量、料理の摂取状況等、食事パターン)、食物摂取頻度とした。社会経済的要因として、客観的指標として世帯の収入、保護者の教育年数、就業時間、家族構成の他、保護者の主観的指標として経済的余裕と時間的余裕等とした。社会経済的要因と子どもの体格や食事に介在する可能性がある要因として、保護者の子どもの食事への関心等の意識等を位置付けた。さらに、子どもの体格や食事に直接影響する調整すべき要因として、運動、身体活動、アレルギー等を把握する。

フードセキュリティ指標を作成するため、指標案として11項目を加えた。

### 3) 調査項目と方法 (表2、資料1、資料2)

表2に、調査項目一覧を示す。

児童の体格は学校健診のデータから把握した。

児童の食事記録は平日2日、休日2日とした。食事記録は記録法と写真法を併用した。児童用の食事調査マニュアルを作成し

(資料1)、各地域の児童がもれなく、同じように食事記録を記載し、写真撮影ができるように学校で説明会をおこなった。家庭での食事は、一定の大きさのチェック模様のランチョンマットに食事をのせて、一定の距離から写真撮影することで、食器や食物の量が把握しやすいように工夫した。

平日の食事記録の学校給食の献立はあらかじめ印刷し、どのくらい食べたかだけを記録できるようにした。児童の自己申告の妥当性を検討するため、学校給食の摂取状況については、調査員による一部秤量法を加えた。

質問紙調査は、保護者用と児童用を用いた。保護者用は、児童の保護者1名に記載してもらった。

調査は平成25年9月～12月に実施した。

調査にあたっては、保護者に文書を用いて、場合によっては説明会を実施して、調査目的、方法、協力は任意であり、協力しなかったことで不利にならないことなどを説明し、同意が得られた人を対象とした。各地域の研究者が同じ方法で実施するため、調査実施方法を記載した研究者マニュアルを作成してそれに基づき実施した。

本調査実施にあたっては、新潟県立大学倫理委員会で承認を得た(承認番号1309)。

調査票(保護者用質問紙、子ども用質問紙、食事記録用紙)を資料2に示した。

#### 4) 食事調査の解析方法

食事記録は、記録と写真から、各地域で食事調査の解析経験が十分ある管理栄養士がおこなう。その際、マニュアル(資料3)を作成して、統一した方法で解析をおこな

う。

本報告書作成時点は、食事調査の解析が開始し、体格や質問紙調査についても、データの入力とチェックが終わった段階である。したがって、本報告書では、結果については、全体の実態の記述疫学結果のみを報告する。

### C. 結果

#### 1) 配布数と回収数

表1に調査票の配布回収数を示す。合計で、配布数 回収数 回収率約83%であった。ただし、各調査票への回答の有無、体格データの有無により、解析対象数は項目によって異なる。

#### 2) 各調査の結果

保護者の質問紙について、世帯の社会経済的状態については阿部、保護者の食生活等については山本が報告する。児童の食生活については石田、児童の体格は村山が報告する。各報告書を参照。

### D. 考察

#### 1) 高い回収率の要因

本調査は、4日間の食事調査や世帯の社会経済的状態を把握するための項目があり、対象者の負担が大きいため、回収率(同意率)が低いことが予想された。しかし、回収率は80%を超え、高かった。

この原因として、教育委員会および学校の協力体制がよく、事前に調査について保護者へ周知されたこと、研究者が対象校に出向いて、保護者説明や児童への説明をおこなったことが考えられる。さらに、負担

の大きい食事調査を保護者ではなく、児童自身にお願いしたこと、その際に写真を撮ってもらうことで、児童が興味をもって取り組めたことも一因と考えられる。写真法については、海外の先行研究でも児童の調査への有効性が検討されている<sup>2)</sup>。

## 2) 地域と学校の位置づけ

本対象地域と学校は、全国の学校からランダムサンプリングしたものではなく、関東と北陸中部地域の4県の一部の市町村である。また、従来の児童生徒の食事状況の実態を把握することを目的とした調査<sup>3)</sup>では、全国を代表するように各地域の学校をサンプリングし、さらにそこから一部の児童を抽出して食事の調査が実施されている。

本研究の目的は、全国の平均的な実態を把握することではなく、食生活とその要因間の関連について検討することであるため、全国あるいはその県内での代表性を重視するよりは、できるだけある集団全数を対象とすることが重要であると考えた。

また、前述のように食事記録4日間と社会経済的状況の把握という、従来実施が難しかった調査であることを考えると、今回のように協力が得られる自治体や学校の対象学年全数を調査したことは妥当であったと考える。

## 3) 今後の解析について

今後、社会経済的要因と児童の食生活との関連についての分析は、交絡因子等を十分に考慮して、適切な分析方法により結果を出す必要がある。

## E. 結論

本研究は、児童の食生活と世帯の社会経済的要因や保護者の意識等との関連を明らかにし、子どものフードセキュリティーの状況を把握できるような指標を検討することを目的とした。全国4県の6市町村にある19小学校に在籍する5年生全数1498人のうち、長期欠席等の児童を除く1447人の児童と保護者に調査協力を依頼し、1196人(82.6%)から同意を得、解析対象とした。

今後、社会経済的要因と食生活との関連について、検証していく。

## F. 参考文献

- 1) ユニセフイノチェンティ研究所、阿部彩、竹沢純子(2013)「イノチェンティレポートカード11 先進国における子どもの幸福度—日本との比較 特別編集版」。公益財団法人日本ユニセフ協会(東京)。
- 2) Higgins JA, LaSalle AL, Zhaoxing P et al. Validation of photographic food records in children: are pictures really worth a thousand words? *Eur.J. Clin. Nutr.* 2009; 63:1025-1033.
- 3) 日本スポーツ振興センター. 平成22年度児童生徒の食事状況等調査報告書【食生活実態調査編】

## G. 健康危険情報

なし

## H. 研究発表

1. 発表論文  
なし



## 2. 学会発表

1) 村山伸子、石川みどり、山本妙子：子どもの食生活・栄養状態を規定する社会経済的要因に関する研究動向：系統的レビュー．第71回日本公衆衛生学会．日本公衆衛生雑誌 2012；59：412.

2) 村山伸子：社会経済的要因と健康格差～格差社会からみえてくる栄養・食の課題～、第71回日本公衆衛生学会公衆衛生行政フォーラム．日本公衆衛生雑誌 2012；59：95.

3) 村山伸子：食環境づくりの先へ-食に関わる「自然・社会・経済・文化的環境の質の向上」に向けて．第59回日本栄養改善学会基調シンポジウム．栄養学雑誌 2012；70：58.

4) 村山伸子：食生活格差とソーシャルインクルージョン．園田保健社会学の形成と展開．東京：東信堂；2013．261-266.

5) 村山伸子：近隣諸科学との協働による栄養・食生活分野の格差の実態把握と対策に向けて．第72回日本公衆衛生学会総会シンポジウム．日本公衆衛生雑誌 2013；60：139.

## I. 知的財産権の出願・登録状況（予定を含む）

### 1. 特許取得

なし

### 2. 実用案登録

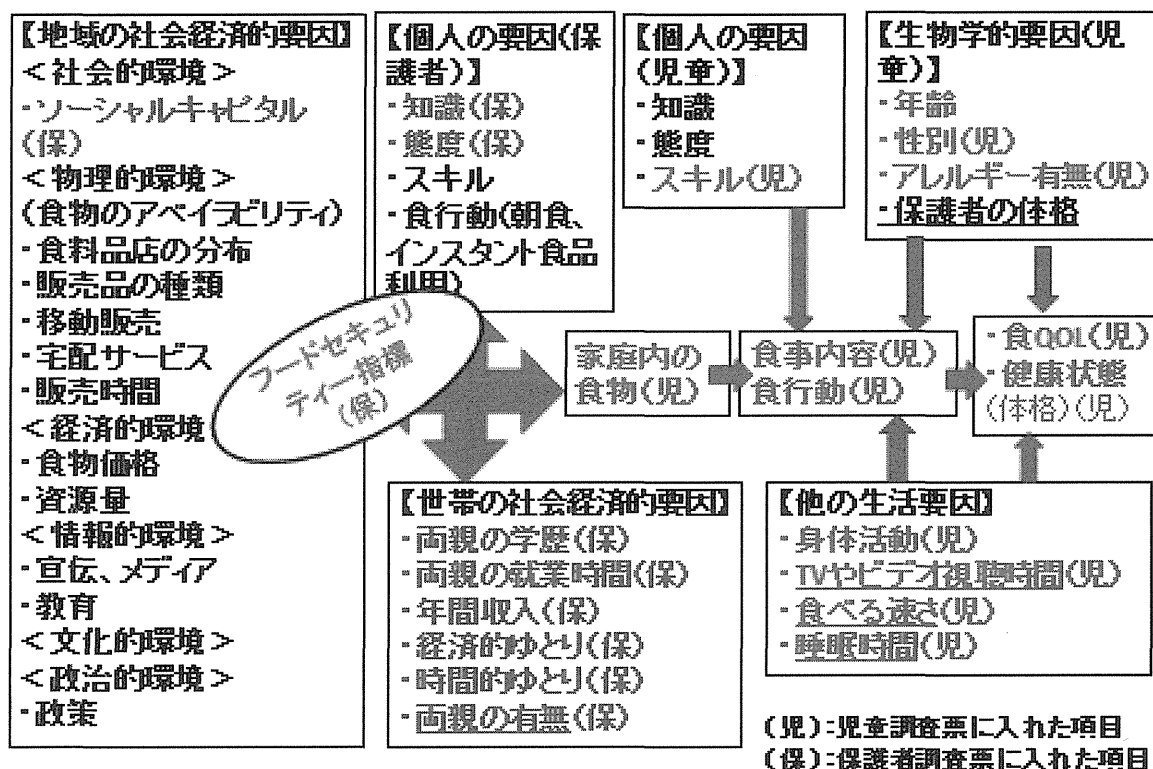
なし

### 3. その他

なし

表 1 調査対象者数

	在籍数	配布数	解析対象数	回収率
A 県	3 5 1	3 4 6	2 7 3	78.9%
B 県	3 8 1	3 7 9	3 2 2	85.0%
C 県	5 3 1	4 8 7	3 9 6	81.3%
D 県	2 3 5	2 3 5	2 0 5	87.2%
合計	1 4 9 8	1 4 4 7	1 1 9 6	82.7%



社会経済的要因と子どもの食生活・栄養状態との関連の概念図

表2 子どもの食生活実態調査の枠組みと項目

子どもの体格(2013年9月の学校健診データ)

大項目	中項目	解析項目	問番号	他の調査での同じ項目
体格	身長、体重、月齢	身長、体重、肥満度		

子どもの食事記録(子どもが記入)

大項目	中項目	解析項目	問番号	他の調査での同じ項目
食事	食事内容(平日2日、休日2日)	栄養素摂取量、食品群別摂取量、料理区分(主食・主菜・副菜別)別摂取状況		

子ども食生活調査票

大項目	中項目	質問項目	問番号	他の調査での同じ項目	
食のQOL	食事の楽しさ	学校での給食の時間は楽しいですか	6		
		家での食事の時間は楽しいですか	25		
健康・栄養状態	身長、体重	身長と体重はどのくらいですか	31	文科省調査H17	
家庭での食行動	朝食摂取頻度	毎日朝食を食べますか	7-1)	文科省調査H17 問12	
		学校が休みの日、朝食を食べますか	7-2)		
	昼食摂取頻度	学校が休みの日、昼食を食べますか	8		
		毎日夕食を食べますか	9-1)		
	夕食摂取頻度	学校が休みの日、夕食を食べますか	9-2)		
		毎日夜食を食べますか	10-1)		
	夜食摂取頻度	学校が休みの日、夜食を食べますか	10-2)		
		毎日間食を食べますか	11-1)		
	間食摂取頻度	学校が休みの日、間食を食べますか	11-2)		
		朝食 いつもどのように食事をしていますか(家族との共食)	12-1)		
	学校給食の行動	共食	夕食 いつもどのように食事をしていますか(家族との共食)	12-2)	
			平日、家で夕食を食べるのにかかる時間	13	
		間食の規則正しさ	あなたは、おやつを食べる時間や量が決まっていますか	14	
		食物摂取頻度	生鮮魚や肉、加工した魚や肉、卵、豆腐や納豆、野菜、果物	15~20	
		外食の頻度	あなたは学校や家以外でのお店で食べることはどのくらいありますか	21	
加工食品の頻度		インスタントラーメン、カップめんを食べることはどのくらいありますか	22		
食事づくり		家で食事の手伝いをしますか	23	文科省調査H17 問20	
食スキル(作る)		あなたは、自分だけで料理をつくることができますか	24	文科省調査H17 問21	
学校給食の行動		主食の摂取	給食のごはん、パンをどのくらい食べていますか	3	
		おかずの摂取	給食のおかずをどのくらい食べていますか	4	
	牛乳の摂取	給食の牛乳をどのくらい飲んでいますか	5		
家庭内食環境	家庭内の食物保存状況	あなたの家には、いつもお米、肉、魚、卵、野菜、果物、牛乳が置いてありますか。	26		
生活習慣	生活リズム	あなたの平日(学校がある日)の「朝起きる時刻」と「夜、寝る時刻」は何時ごろですか	2	文科省調査H17 問10	
		あなたは学校の授業以外でどのくらい運動(外遊びも含む)をしていますか	27	文科省調査H17 問14	
	テレビ、ビデオを見る時間の規則	あなたは平日テレビ、ビデオを見る時間、ゲーム、パソコンをする時間は決まっていますか	28		
	テレビ、ビデオを見る時間	あなたは平日テレビ、ビデオを見る時間、ゲーム、パソコンをする時間はどのくらいですか	29		
	排便習慣	毎日うんちが出ますか	30		
属性	性別	男、女	1		
	食物の制限	アレルギーや病気の治療のために食べられないものがありますか、その食べ物は何か	32		

保護者調査票

大項目	中項目	質問項目	問番号	他の調査での同じ項目
食生活	食行動(食べる) 食行動(作る)	あなたは、毎日朝食を食べますか	4.5	文科省調査H17 問4、問8、問9
		調理済み食品やインスタント食品を利用する頻度、その理由	6.7	
	食態度	お子さんの食事について気にしていますか	8	
	食知識	お子さんの健康を維持するために適した1食の量とバランスがわかりますか	9	
フードセキュリティ (世帯用)	経済的な理由	この1年間で、経済的な理由で野菜や果物の入手を控えたり、入手できなかったことがありますか	10	
		この1年間で、経済的な理由で肉や魚の入手を控えたり、入手できなかったことがありますか	10	
	買い物が不便	この1年間で、経済的な理由で食べたい食物の入手を控えたり、入手できなかったことがありますか	10	
		この1年間で、経済的な理由で必要な食物の入手を控えたり、入手できなかったことがありますか	10	
		この1年間で、買い物が不便で野菜や果物の入手を控えたり、入手できなかったことがありますか	10	
		この1年間で、買い物が不便で肉や魚の入手を控えたり、入手できなかったことがありますか	10	
		この1年間で、買い物が不便で食べたい食物の入手を控えたり、入手できなかったことがありますか	10	
		この1年間で、買い物が不便で必要な食物の入手を控えたり、入手できなかったことがありますか	10	
	自給 もらう	この1年間で米や野菜など自家生産したものを食べましたか	11	
		この1年間で近所の人や親戚と食物をもらうことができましたか	12	
ソーシャルキャピタル	地域の人とのつながりの程度	子育てを通じて、地域での交流やつきあいがある(交流)	21	
		子育てをするうえで、地域や地域の人を信頼できる(信頼)	21	
		子育てに関して必要な情報が得られる(手段)	21	
		子育てで困ったときに助けてもらえる(支援)	21	
属性・社会経済状態	子どもとの続き柄	あなたはお子さんの(1母親、2父親、3祖母、4祖父、5その他)	1	文科省調査H17 属性
		世帯人数	2	
	5年生の子どもと同居している人	家計を共にしている家族の人数(単身赴任の方を含めず)	3	厚労省H22,H23、内閣府H21
		母親、父親、祖母、祖父、兄弟姉妹、その他	3	
	経済的ゆとり	あなたの世帯の経済的な暮らし向きについてあてはまるもの	14	
	時間のゆとり	あなたは時間的なゆとりについてあてはまるもの	15	
	就業状況(父親)	父親の収入をとまなう就業時間	16	
	就業状況(母親)	母親の収入をとまなう就業時間	17	
	年間収入	100万円未満、100～200、200～300、300～400、400～600、600～800、800以上	18	
	学歴(父親)	中学校、高校、短大、大学、答えたくない	19	
学歴(母親)	中学校、高校、短大、大学、答えたくない	20		

文科省調査：(独)日本スポーツ振興センターの平成17年度児童生徒の食生活等実態調査

内閣府調査：平成21年度食育の現状と意識に関する調査

厚労省調査：平成22年度国民健康・栄養調査